



## 衣川 寛介

### 『亀山 本徳寺の梵鐘』

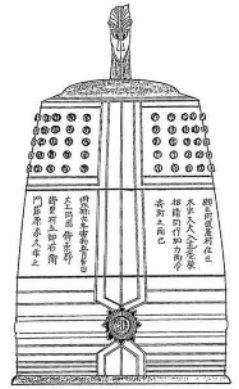
姫路は中世から『播磨鍋』や『梵鐘』で有名な野里村の鋳物師（いもじ）芥田五郎右衛門が活躍しました。初代は芥田五郎右衛門家久、天文14年、播磨鋳物師の統領職であった飾磨津田村の藤原弁随から売り場の権利を買い取り、又、印南郡の大村新五郎からも同様に買い取り芥田家の基礎を固め、野里村に住まいするようになりました。61才で亡くなりましたが（没年天正 8年）、彼の配下には有能な協力者小野家、田中家、尾上家があります。

二代目は芥田五郎右衛門宗貞、三代目芥田五郎右衛門充商で、この時京都方広寺の大仏鑄造の手伝いを依頼され、160人余の部下を連れ脇頭領の一人として働きました。現在は十六代芥田春男氏が現当主として芥田文書（あくたもんじょ）といわれる古文書類を管理しておられます。播磨国鋳物師惣管職の芥田家は梵鐘の鑄造に優れていて、兵庫県内に今も残っています。その一つが亀山本徳寺にあります。

本徳寺『ぶらり まっぷ』には梵鐘は大広間の南にある中庭の脇に鎮座。『今から 500年前に強奪された梵鐘。この鐘を門徒衆が命をかけて取り戻しました。』と書かれています。

姫路市の文化財説明は以下です。この梵鐘は播磨地区に残るものの中では大型でかつ形姿も重厚である。陽鑄の銘文によれば永禄 9年（1566）飾西郡仮屋村（不明）の三木宗大夫入道慶栄が母妙秀の17回忌にあたり英賀本徳寺の常住（什）鐘として寄進したもの。三木宗大夫は本徳寺有力門徒で播磨国における浄土真宗発展に大きな役割を果たした三木氏の一族。製作者は初代の野里村芥田五郎右衛門藤原家久。

総高 168.4 cm 口径 98.5 cm 口縁部の厚さ 12.5 cm 室町時代  
一度、梵鐘を見て見たいと思い本徳寺さんへ電話をしました。『どうぞ、どうぞ、大広間の南にあります』大歓迎の様子。最後に『あなたのお名前とは聞きました。』『大谷です。』蓮如の直系のお寺なのです。私が興味を覚えたのはこの青銅製の梵鐘、一部が磁石につきます。（右写真の赤線で囲まれた部分）、どうして磁石につくのだろう？大きな面積です。青銅製の鋳物には型持ちとして、青銅を使うのが一般的ですが、鉄を使うこともある、と技術書には書いてありますが、私には理解できません。同様に芥田家が作った『勝瑞寺』（1555年）の梵鐘を見せて頂くと笠の内面に鉄の型持ちと思われる痕が4ヶ所ありました。



参考資料 姫路市文化財課資料より

願主同仮屋村住三  
木宗太夫入道慶栄  
招請同行加力而令

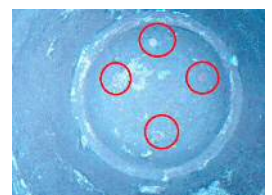
第二区

播州飾西郡英賀東  
本徳寺常住鐘  
右志者為母妙秀十  
七回忌報恩奉鑄之

第一区

皆永禄九年丙寅五月吉日  
大工同国飾東郡  
野里村五郎右衛  
門藤原家久作之

第三区



勝瑞寺  
梵鐘内面



『鉄のふしぎ博物館』  
来て！見て！ふれて！ ふしぎ体感  
鉄を見る目が変わりますよ。  
ぜひお越しください。